

厚生労働科学研究費（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

高齢心不全患者に対する退院直後（早期）からの訪問看護介入効果の検討（研究5）

研究代表者	目麻里子	東京大学大学院医学系研究科 助教
研究分担者	柏原康佑	東京大学医学部附属病院臨床研究推進センター 特任講師
	小島太郎	東京大学医学部附属病院老年病科 講師
	北村智美	一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構研究部 研究員
研究協力者	角川由香	東京大学大学院医学系研究科 助教
	増田有葉	東京大学大学院医学系研究科 大学院生
	矢坂泰介	東京大学大学院医学系研究科 大学院生

研究要旨

本研究の目的は、心不全をもつ高齢患者の退院直後（早期）の訪問看護利用群と非利用群における、訪問看護介入の効果を検討することである。効果検討には、在宅療養を行う高齢者の状態像を評価する標準化された質指標として研究班が開発した「長期ケア質指標」を用いる。本研究は令和4年度～5年度を調査実施予定期間としており、令和3年度は調査開始に向け、医師・看護師などの臨床実践家および生物統計家へのヒアリングを実施し、研究デザインや倫理的配慮について検討した。

A. 研究目的・背景

慢性疾患である心不全は高齢になるにつれ有病率が高くなり、世界的に共通して患者数の上位を占めるものである¹⁻³。高齢化に伴い患者数は今後ますます増加を続けることが予想され^{4,5}、この疾患の患者に対する治療、ケア、およびその提供体制に関する検討は喫緊の課題である⁶。

特に高齢患者は心不全の増悪を繰り返す特徴があり³、退院後の在宅・地域での日常生活における心身のマネジメントは重症化や増悪を予防し、住み慣れた場所で尊厳を保ち質の高い生活を営み続けるために不

可欠である。さらに、昨今は多職種による包括的ケアの必要性が叫ばれているが、そのなかで看護師は患者への直接ケアを行う機会が多いことに加え、多職種と患者をつなぐ役割をもち、包括的ケアを先導する存在とされる。海外の多くの文献においてもNurse-led careとしてその役割の重要性は認識されている⁷⁻⁹。

在宅・地域において主にその役割を果たすのは訪問看護師である。訪問看護師は「健康と生活」の視点をもち、心身の両面から在宅療養高齢者を包括的にアセスメントしケアを行う。急性増悪予防のため、

退院直後早期から継続的な日常生活および疾患マネジメントが必要となる心不全患者に対し、訪問看護師は大きな影響をもつと考えられる。しかし、訪問看護師の行う全人的なケアは利用者の状態像が複雑なこと・アウトカム指標が確立されていないことから可視化が難しく、心不全の患者に対し訪問看護師によるケアがどのような効果をもたらすか明らかにされていない。

本研究の目的は、心不全をもつ高齢患者の退院直後の訪問看護利用群と非利用群における、訪問看護介入の効果を検討することである。なお、効果検討には、在宅療養を行う高齢者の状態像を評価する標準化された質指標として「長期ケア質指標」を用いる。

B. 令和3年度の進捗

本研究は令和4年度～5年度を調査実施予定期間としている。令和3年度は調査開始に向け、医師・看護師などの臨床実践家および生物統計家へのヒアリングを実施し、研究デザインや倫理的配慮について検討した。

C. 令和3年度に実施したヒアリング

本年度は8名の臨床実践家および統計家に対しヒアリングを実施した。以下に各回の概要を示す。

1) 2021年11月24日(水)

対象者：高砂裕子氏（訪問看護師/南区医師会訪問看護ステーション管理者・全国訪問看護事業協会副会長）

内容：①対象者の適格・除外基準につい

て、②調査に参加可能な訪問看護ステーションについて

2) 2021年11月24日(水)

対象者：柏原康佑氏（生物統計家/東京大学医学部附属病院特任講師）

内容：①対象者の割付について、②観察期間および評価間隔について

3) 2021年11月30日(火)

対象者：高取幸代氏（ゆみの訪問看護ステーション訪問看護師）

内容：①対象者の適格・除外基準について、②心不全高齢患者への訪問看護の実態について

4) 2021年12月7日(火)

対象者：山田雅子氏（聖路加国際大学在宅看護学分野教授/日本在宅看護学会理事長）

内容：①訪問看護介入の効果測定のための評価指標およびメインアウトカムについて、②訪問看護ステーションのリクルートについて

5) 2021年12月8日(水)

対象者：小島太郎氏（老年病科医師/東京大学医学部附属病院講師）

内容：①高齢心不全患者の外来通院・入院の現状について、②循環器専門医についてご紹介

6) 2021年12月17日(金)

対象者：森崎真由美氏（東京大学医学系研

究科家族看護学分野助教)

内容：①東京大学附属病院外来での介入研究について

7) 2022年2月28日(月)

対象者：波多野将氏(東京大学医学部附属病院循環器内科、高度心不全治療センター准教授)

内容：①高齢心不全患者の外来通院・入院の現状について、②対象者の適格・除外基準について、③訪問看護介入の効果測定のための評価指標およびメインアウトカムについて、④具体的なリクルートについて

8) 2022年3月24日(木)

対象者：高取幸代氏(ゆみの訪問看護ステーション訪問看護師)

内容：①心不全患者に対する訪問看護の介入プロトコルについて助言、②ゆみの訪問看護ステーション内のICT利用状況、③今後の相談の流れについて

D. 今後の見通し

現在、研究計画の詳細について検討を進めているほか、具体的なセッティングについて対象候補先との話し合いを予定している。現時点での研究計画概要(案)を図1に示す。なお、近日、本研究について研究代表者が所属する大学の倫理審査委員会に倫理申請のうえ、令和4年度には調査に着手する予定である。

文献

1. Ambrosy, A. P., Fonarow, G. C., Butler,

J., Chioncel, O., Greene, S. J., Vaduganathan, M., ... & Gheorghiade, M. (2014). The global health and economic burden of hospitalizations for heart failure: lessons learned from hospitalized heart failure registries. *Journal of the American College of Cardiology*, 63(12), 1123-1133.

2. Shimokawa, H., Miura, M., Nochioka, K., & Sakata, Y. (2015). Heart failure as a general pandemic in Asia. *European journal of heart failure*, 17(9), 884-892.

3. Ide, T., Kaku, H., Matsushima, S., Tohyama, T., Enzan, N., Funakoshi, K., ... & JROADHF Investigators. (2021). Clinical characteristics and outcomes of hospitalized patients with heart failure from the large-scale Japanese Registry Of Acute Decompensated Heart Failure (JROADHF). *Circulation Journal*, 85(9), 1438-1450.

4. Yasuda, S., Miyamoto, Y., & Ogawa, H. (2018). Current status of cardiovascular medicine in the aging society of Japan. *Circulation*, 138(10), 965-967.

5. 厚生労働省. (2019). 患者調査 2017, 上巻 第 61 表 . Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/17/index.html>.

6. 厚生労働省. (2020). 循環器病対策推進基本計画 . Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/10905000/000688415.pdf>

7. Gorthi J, Hunter CB, Mooss AN, Alla

VM, Hilleman DE. Reducing heart failure hospital readmissions: A systematic review of disease management programs. *Cardiol Res* 2014; 5: 126-38.

8. Naylor, M. D., Brooten, D., Campbell, R., Jacobsen, B. S., Mezey, M. D., Pauly, M. V. et al. (1999). Comprehensive discharge planning and home follow-up of hospitalized elders: A randomized clinical trial. *The Journal of the American*

Medical Association, 281, 613–620.

9. Strömberg, A., Martensson, J., Fridlund, B., Levin, L. A., Karlsson, J. E. & Dahlstrom, U. A. (2003). Nurse-led heart failure clinics improve survival and self-care behavior in patients with heart failure. *European Heart Journal*, 24, 1014–102

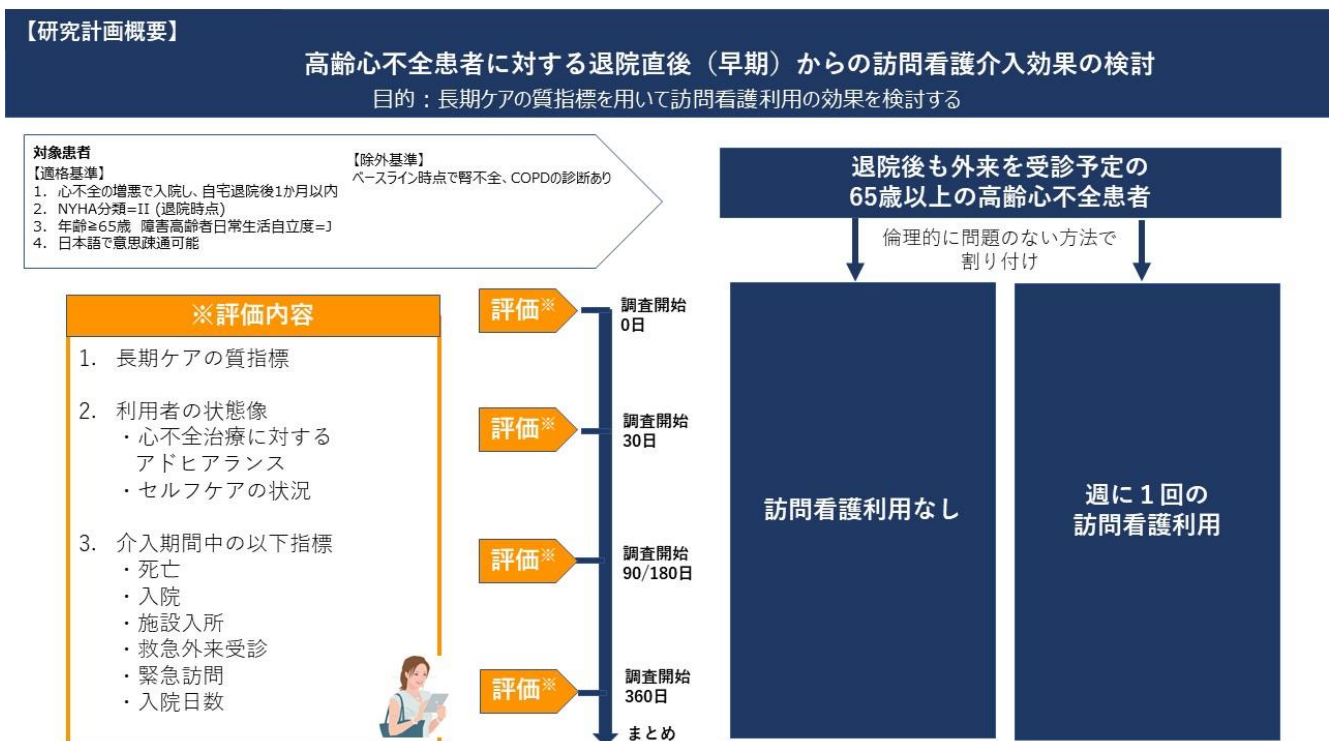


図1 研究計画概要（案）